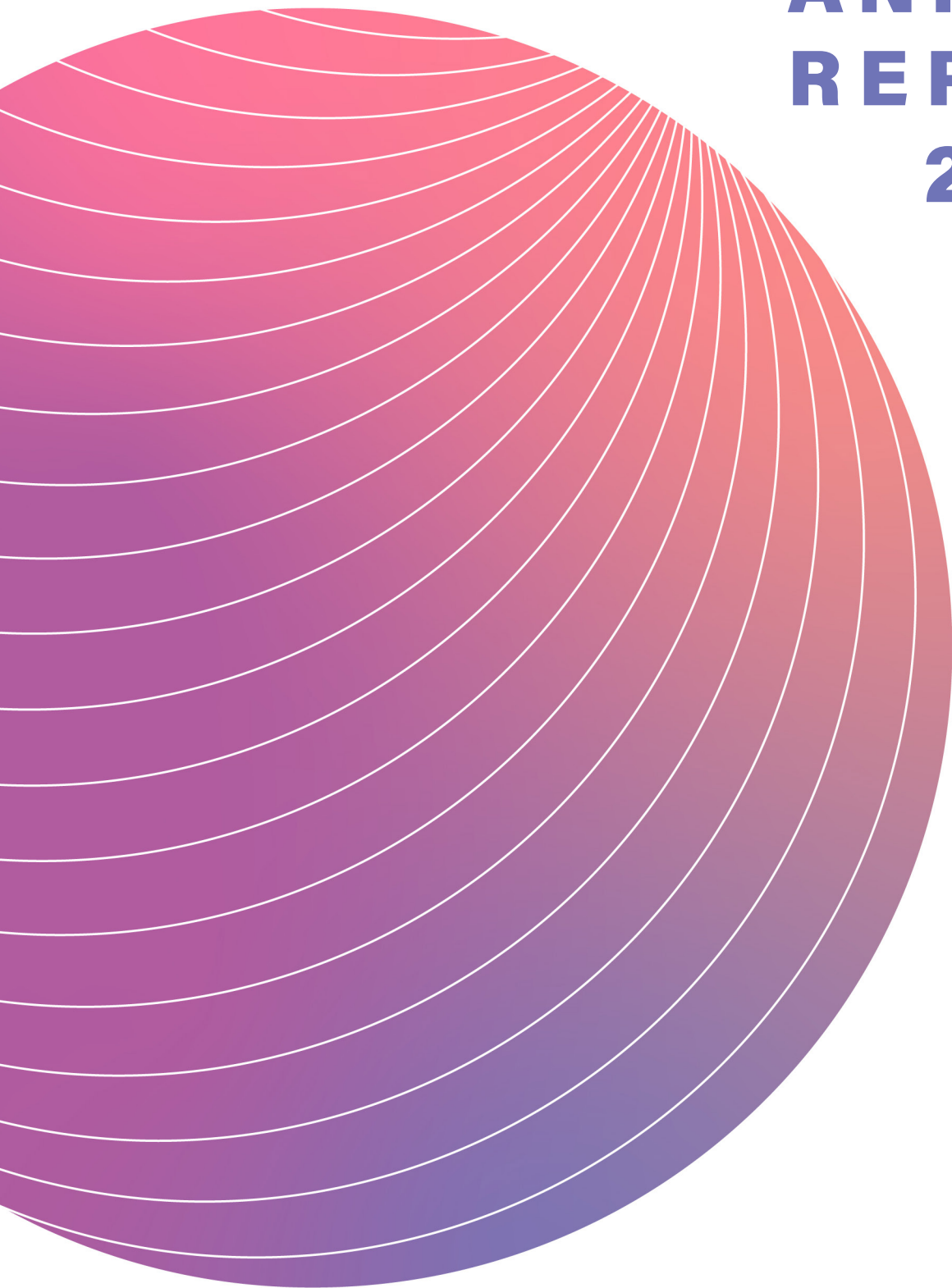


2021年度 年次報告書

2021.07 - 2022.06

SIMI
ANNUAL
REPORT
2021



「社会的インパクト・マネジメント」の 社会実装により、社会価値創造を促進する

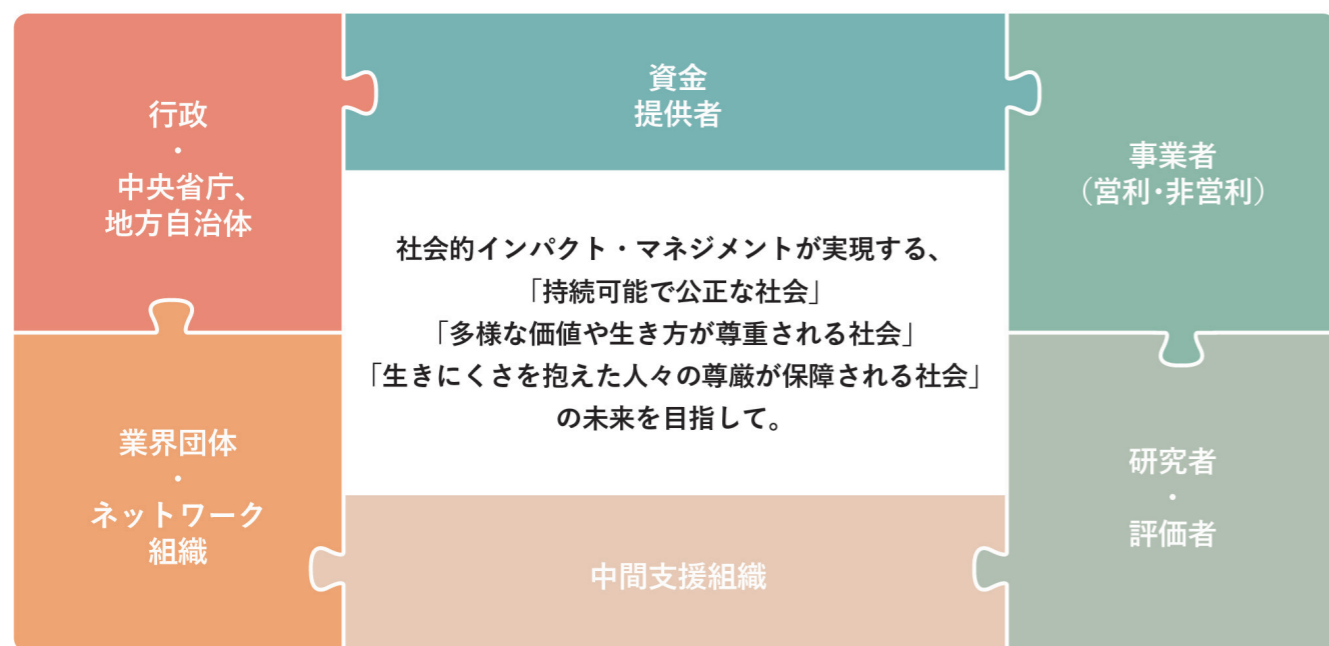
一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）は、日本において事業者、資金提供者・仲介者、行政、中間支援組織・シンクタンク、評価者・研究者など多様なメンバーが連携して、日本全体として「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブです。「普及啓発」「知見の高度化」「人材育成/コミュニティ形成」の3つの角度で「社会的インパクト・マネジメント」の普及に取り組んでいます。

VISION

社会的インパクト・マネジメントが
実装され、社会課題解決や社会価値
創造が行われている社会

MISSION

あらゆる組織の社会的インパクト・
マネジメントを促進するとともに、
組織や業界、活動分野を越えた参画・
協働を加速する共創基盤を提供します。



代表理事から見た SIMI2021 年度のポイント | 今田克司 | SIMI 代表理事

今年度は、社会的インパクト・マネジメントへの追い風を一層感じる一年となりました。金融の世界で育っているサステナブル・ファイナンスの考え方や実践の中でも、インパクトへの注目が国内外で増大しています。SIMI は、ソーシャルセクターや政府、企業の CSR 活動を中心としたマルチセクターの集まりから出発した経緯を持っていますが、「インパクト」の共通言語が金融の世界や企業の本業の中で大きく動き出し、これが資本主義の基本的あり方を根本から揺さぶるもの（ディスラプション）になりつつあります。SIMI では、今後も意味のあるディスラプションとそこから生まれる革新を様々な形で皆さんとともに作り出していきたいと思っております。

SIMI COMMENTS

2021 年度の主な取り組み

設立 2 年目となる 2021 年度は、2020 年度の事業に加えて様々な新規事業に取り組みました。特に人材育成事業やコミュニティ形成は 2021 年度の主要な取り組みです。

2021.09

・日本の投資家向け GIIN COMPASS 解説会

2021.11

・「インパクト志向金融宣言」に賛同団体として署名
・企業のサステナビリティ開示～新しい基準づくりの動き～欧州連合（EU）の CSRD と GRI の改訂スタンダードに関する解説会
・「明治大学リバティアカデミー」の講座企画・運営に協力
・Impact Management Platform にアウトリーチパートナーとして加盟

2021.12

・SIMI が日本語監修に協力した
「企業・事業者向け SDG インパクト基準」公開

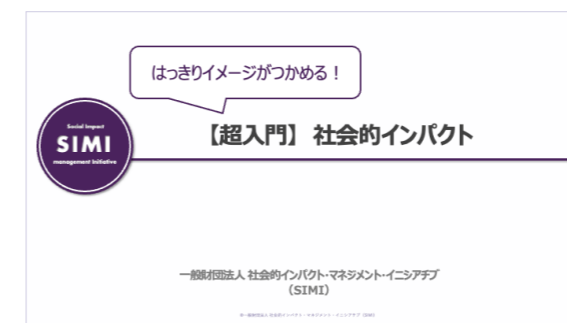
2022.01

・Social Impact Day 2021
「インパクト・エコノミーへの転換点 - 社会的インパクト時代の到来 -」



2022.02

・社会的インパクト・マネジメント超入門シリーズ
動画を制作・公開



2022.06

・インパクト・アナリスト研修「基礎編」スタート
・エンゲージド・メンバー & 理事 ダイアログイベント
・【ウェビナー】インパクト・アカウントビリティの時代～インパクト・パフォーマンス、報告、検証の課題



2022.04

・【特別ウェビナー】インパクト投資から見た「新しい資本主義」

2021 年度メディア掲載実績

- 2022/01/22 今問われる「パーパス経営と社会的インパクト」とは（サステナブル・ビジネス・マガジン alterna）
- 2022/02/06 Beyond ESG ④ インパクトを可視化せよ 産官学の奮闘（日本経済新聞）
- 2022/04/15,22 インパクト投資から見た新しい資本主義（1）（2）（サステナブル・ビジネス・マガジン alterna）
- 2022/06/15 人材戦略を定量化する「インパクト加重会計」—人的資本経営とインパクト（前編）（日経 BP Human Capital Online）
- 2022/06/17 注目高まる「インパクト」、新しい資本主義に根付くか（日経 ESG）

Social Impact Day 2021

Online Event
Social Impact Day 2021
 インパクト・エコノミーへの転換点
 - 社会的インパクト時代の到来 -
 2022/01
 21 Fri | 24 Mon | 25 Tue |

Social Impact Day2021 は社会的インパクト・マネジメントに関する国内外の最新動向を発信する日本最大級のイベントです。コロナ禍での2度目となる完全オンライン開催となりましたが、昨年度を上回る延べ2,300名以上の方（事後視聴者含む）に視聴いただきました。今年度は、社会のインパクト志向を促進するためのインパクト・エコノミーの3つの重点領域（①インパクトを社会システムに組み込む、②インパクト・エコノミーを実現するイノベーション戦略とマネジメントのアップデート、③オープンデータ/テクノロジーが促進する社会のインパクト志向）について、3日間、15のセッションを通して議論を深めました。

基調講演「テクノロジー活用による民からの社会システム変革 - インパクト・エコノミー実現に向けて -」
 <スピーカー>

オードリー・タン氏 台湾デジタル担当大臣

太田直樹氏 株式会社 New Stories 代表、一般社団法人コード・フォー・ジャパン 理事

伊藤健 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ業務執行理事



オードリー・タン氏

その他の主なセッション

Special Seccion1 「パーパス経営と社会的インパクト」

<スピーカー>

Bruno Roche 氏 「Economics of Mutuality」プラットフォーム創設者

梶原ゆみ子氏 富士通株式会社 執行役員常務 CSO (兼) サステナビリティ推進本部長

モデレーター：今田克司 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事

Special Seccion2 「SDG インパクト認証が進める社会的インパクト・マネジメント」

<スピーカー>

Fabienne Michaux 氏 Director, SDG Impact

渋澤健 コモンズ投信株式会社取締役会長、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役 /

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

モデレーター：今田克司 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事

参加者の声



いろんな側面からインパクトを考えることができました。インパクト認証、インパクト加重会計の考え方などについてもっと知りたいと感じました。

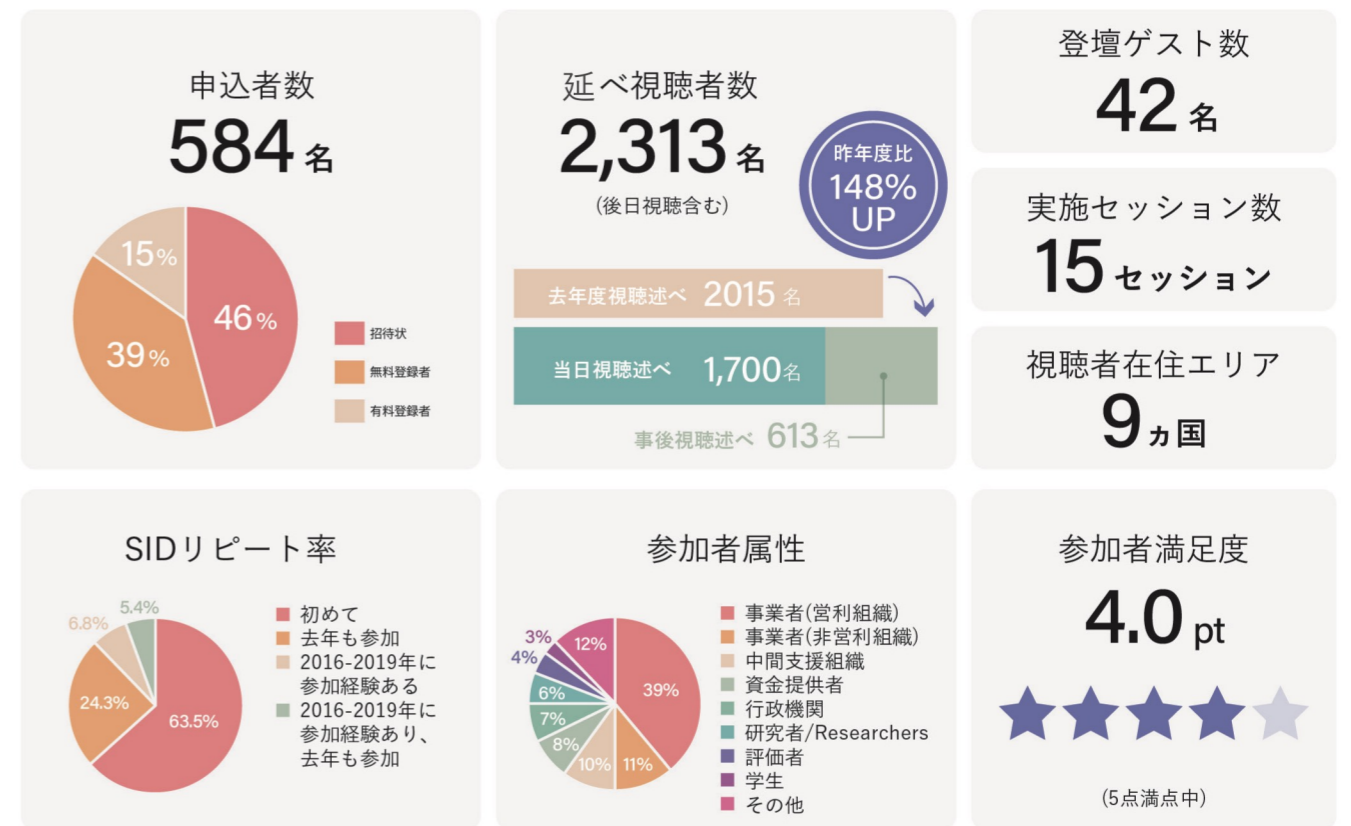


事業者における社会的インパクト・マネジメント (SIM) 実践事例が参考になりました。SIM は素晴らしいフレームワークですが、実際にうまく運用されてこそその素晴らしさを発揮するものだと思う。行政や NPO にとどまらず、様々なセクター / 様々な課題認識におけるアプローチを知ることができ、非常に参考になった。



参加した全てのセッションにおいて、大変実のある内容ばかりで素晴らしかったです。特に、休眠預金活動の社会的インパクトを考えるセッションでは資金提供団体で仕事をするプログラム・オフィサーとしては非常に有意義な学びのあるコンテンツでした。もっと多くの管理職にこのようなディスカッションを聞いてもらえたらと思います。

数字で見る Social Impact Day 2021



理事から見た本事業のポイント | 幸地正樹 | SIMI 理事

今年の Social Impact Day 全体を通して印象的だったのは、オードリー・タン氏の基調講演やテクノロジーセッション等で浮かび上がった共通のメッセージ、「何のために、誰のために取り組むのか」。Social Impact Day も今年で6回目の開催となり、社会的インパクト・マネジメントを取り巻く環境も大きく変化する中でも、常に意識していきたいと思っています。事例や手法等の国内外最新動向から本質的な議論までを楽しめる Social Impact Day、次回も楽しみにしてください。

SIMI COMMENTS

SDG インパクト基準

SIMI が日本語訳監修に協力した「企業・事業体向け SDG インパクト基準」公開



国連開発計画（UNDP）が進める「SDG インパクト」とは、持続可能な開発目標（SDGs）達成につながる投資や事業の世界基準を策定し、研修を実施し、その基準に適合した案件を認証する取り組みです。

UNDP 駐日代表事務所は、日本の企業やその他の事業体からの強い要望を受け、「企業・事業体向け SDG インパクト基準」の日本語訳を発表しました。SDG インパクト基準本体とその付属資料の日本語訳の発行にあたり、SIMI 評議員洪澤健（SDG インパクト運営委員）および SIMI 代表理事今田克司が翻訳に協力いたしました。SIMI は 2021 年度の翻訳協力に始まり、この SDG インパクト基準を活用した企業・事業体の SDG インパクトに関する取り組みの促進を 2022 年度も継続していきます。

SDG インパクトとは

SDG インパクトは、2030 年までの SDGs 達成に向けて「民間資金」の流れを拡大するために UNDP が立ち上げた取り組みです。SDG インパクト基準や研修制度、認証ラベルなど、インパクトを創出するための仕組みの設計や、SDG 投資情報マップなど、SDGs 達成に向け資金の流れを促進するデータ収集・分析・提供を行っています。詳細は特設サイト (<https://sdgimpact-jp.org/>) をご覧ください。

2022 年度の活動

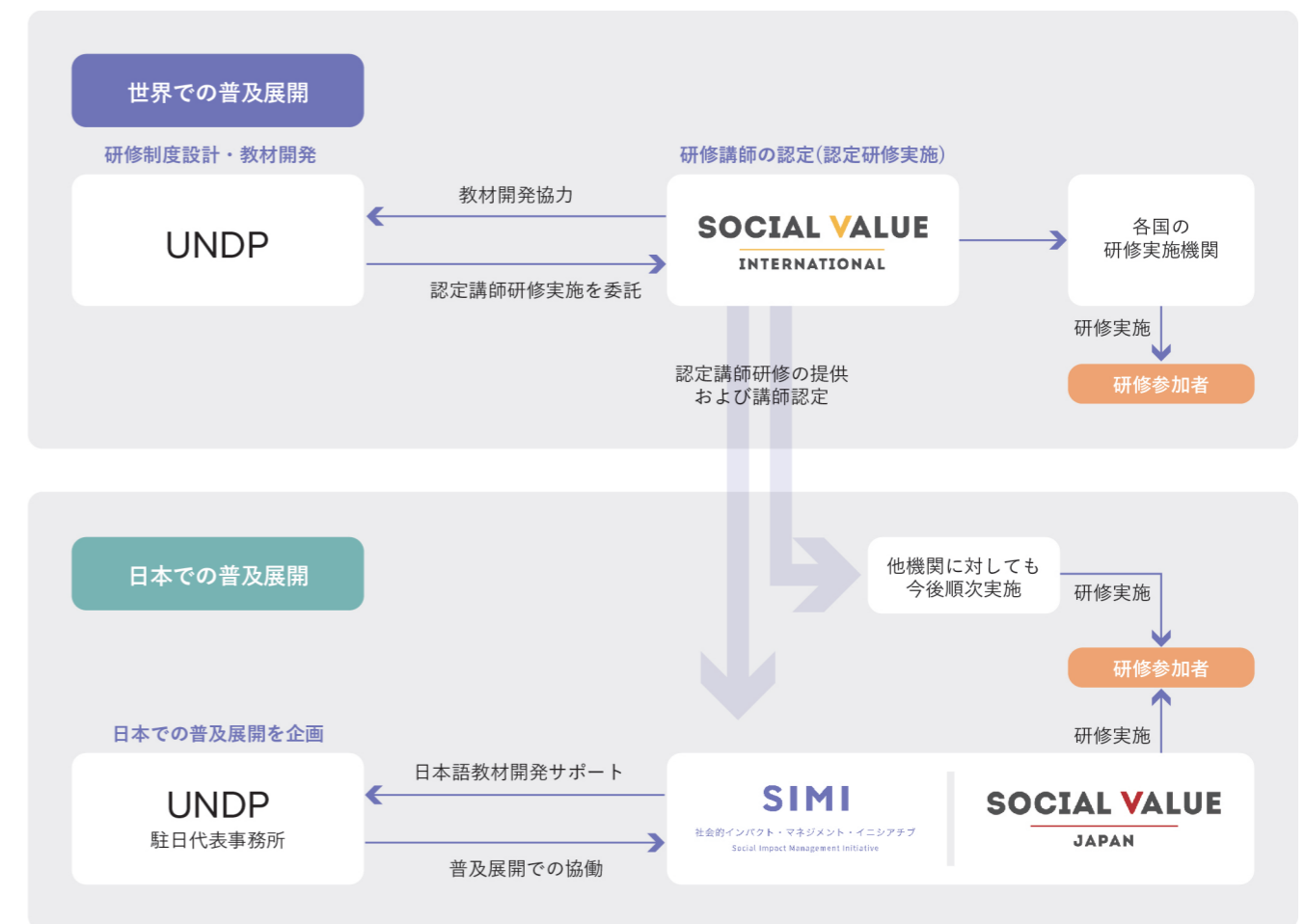
世界初の UNDP の SDG インパクト基準研修認定講師 6 名が誕生、研修実施へ



SIMI 及び特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン（以下 SVJ）のメンバー 6 名は 2022 年 7 月、UNDP が開発した企業・事業体向け「SDG インパクト基準研修」の認定講師資格を取得しました。2022 年夏から世界に先駆けて研修を開始します。

なお、SIMI および SVJ はこの研修教材の日本語訳作成に際し、無償で翻訳に協力し、研修開始を記念して 7 月に東京で開催されたグローバル発表会においてアヒム・シュタイナー UNDP 総裁から感謝状を授与されました。

世界・日本での研修実施体制



Social Value International からのメッセージ | Ben Carpenter 氏 | CEO Social Value International
講師認定組織 Social Value International の SIMI への期待
 SIMI と共に SDG インパクト基準に取り組むことができ、大変嬉しく思っています。UNDP によるこの最新の SDG インパクト基準は、当社 (SVI) の「社会的価値の原則」のような既存の枠組みを基に、企業や投資家がインパクトについてより良い判断を下すための全体的な枠組みを作り上げるものです。SIMI との継続的なパートナーシップを通して、SDG インパクト基準に関する普及に取り組むたいと思います。

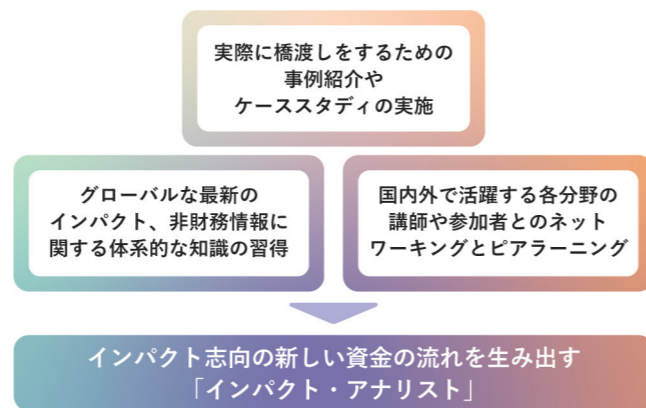


理事から見た本事業のポイント | 伊藤健 | SIMI 理事
 UNDP と Social Value International が協力して推進する SDG Impact の日本での研修展開に、SIMI が参画することは、SIMI に関するナショナル・ハブとしての重要な役割と認識しています。これまでメンバーシップの構築や GSG 国内諮問委員会への関与で培ったネットワークを活用して、日本のビジネス・セクターの中でも、企業経営の中核的価値として社会的インパクトを位置付ける企業での導入を通じて、日本における SDG インパクトの普及へのきっかけとできることを期待しています。

SIMI COMMENTS

インパクト・アナリスト研修

SIMI では、国際交流基金との協働事業として、社会的・環境的インパクトを最適化しながら資金提供を行うインパクト・ファイナンスの実践と担い手の育成に向けた「インパクト・アナリスト研修」を実施しています。本研修では、社会課題解決や価値創造に向けた意思のある金融・投資機関、財団・基金等の資金提供者において、インパクト志向の新しい資金の流れを生み出す「インパクト・アナリスト」が育つことを目指しています。



プログラム概要

インパクト・アナリスト研修はインパクト・ファイナンス及びインパクト測定・マネジメント（Impact Measurement & Management：IMM）の総合的な基礎知識を学ぶ「基礎編」と、インパクト・ファイナンスを実行するためのより実践的な知識や模擬的経験を得る「実践編」、そして特定のテーマについて深掘りして学ぶ「選択講座」から構成されます。

基礎編

2022年6月3日よりインパクト・ファイナンスの取り組みを第一線で実践・推進する講師陣を迎えて、大手銀行、地方銀行、VC、政府系金融機関、財団等の幅広い受講者20名を対象に「基礎編」を実施しています（8月9日に終了）。インパクト創出を意図した資金提供に向けて一歩を踏み出す場として、受講者は講義やグループワーク、ディスカッション等を通して、インパクト・ファイナンスの意義や重要性、必要な要素への理解を深めています。

基礎編受講生の声



反橋知世氏 | 住友生命保険相互会社 運用企画部 運用調査室 責任投資推進チーム

研修の講師陣はインパクトファイナンスにおけるフロントランナーの方々ばかりで、理論・実務面の双方で幅広く多くの知見や経験を共有いただけました。また、金融に限らず様々なバックグラウンドを持つ参加者が多く、グループディスカッションも大きな刺激となりました。発展段階にあるこの分野においては、多様な知見、時には課題意識を持ち寄り、開かれた議論を重ねることが重要だと研修を通じて学びました。

選択講座

インパクト・ファイナンスに関わる様々なテーマやトピックを深掘りして学ぶことができるオンデマンド形式の単科講座（動画及びセミナー）のコンテンツを開発・提供しています。2021年度は「インパクトの基本要素とABC分類」や「資本市場における投資家の貢献」等を解説する動画5本をWebサイトで公開しました。今後より専門性かつ実用性の高いコンテンツを充実させていく予定です。

【公開済みコンテンツ】

- ・インパクト・ファイナンスにおけるインパクトとは？－インパクトの基本要素とABC分類
- ・インパクト投資とは何なのか？－インパクト投資の中核的特徴
- ・インパクト・ファイナンスにおける投資家の役割とは？－資本市場における投資家の貢献 など



2022年度の活動

実践編

2022年9月より、北米・欧州・アジア等でインパクト投資・IMMの推進を行う米国 Impact Frontiers とのコンテンツ提携にもとづき、インパクト・ファイナンスの基礎レベルから実践レベルへのステップアップを支援する「実践編」を実施します。国内外の最新事例によるケーススタディや日米の講師とのディスカッション、受講者同士のピア・ラーニング等を通して、インパクトファイナンスとIMMの実践に必要なとされるテーマを総合的に学びます。

Impact Frontiers について

Impact Frontiers は、インパクト投資を志す投資家がともに学び、インパクト投資市場を協働で形成していくことを目指し、北米・欧州・アジアなどにおいて、インパクト投資及びIMMの実践支援や研修事業、投資家ネットワークの形成等を行うユニシアチブです。



協働パートナー：国際交流基金

インパクト・アナリスト研修事業は国際交流基金との協働事業として実施しています。



原田栄理奈氏 | 国際交流基金国際対話部事業第1チーム主任

日本初のインパクト・アナリスト人材の育成を目指した包括的な研修の基礎編として、参加者のバックグラウンドに多様性を持たせた意欲的な取り組みだったと評価しています。実際に研修を行うと、参加者の中でも、金融機関関係者とそうでない者との差が課題として浮き上がりましたが、本研修の先を見据え、インパクト投資を日本社会に普及させるにあたり避けられない課題であるため、この段階で認識できたのは大きな収穫だったかと考えられます。また、参加者にとっては、講師や受講者から、同業者からは得られない視点や意見を得る機会になり、研修を起点としてインパクト投資で結びついたコミュニティが形成されたと思います。

後援：金融庁・GSG 国内諮問委員会



池田友理氏 | 金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス推進室 課長補佐

持続可能な開発目標（SDGs）やパリ協定の採択等、持続可能な社会の構築が世界と日本の大きな課題となる中で、新たな産業・社会構造への転換を促し、持続可能な社会を実現するための金融（サステナブルファイナンス）の推進が不可欠です。インパクト投資を含むサステナブルファイナンスに係る取組みを実効的に進めていくためには、専門知見を有する人材の育成・充実が、喫緊の課題となっています。基礎的な知識に加えて、実際に応用できるようなスキルを獲得していくことが重要であり、そうしたスキルを身につける実務家が増え、日本のサステナブルファイナンス市場の活性化につながっていくことを期待しています。



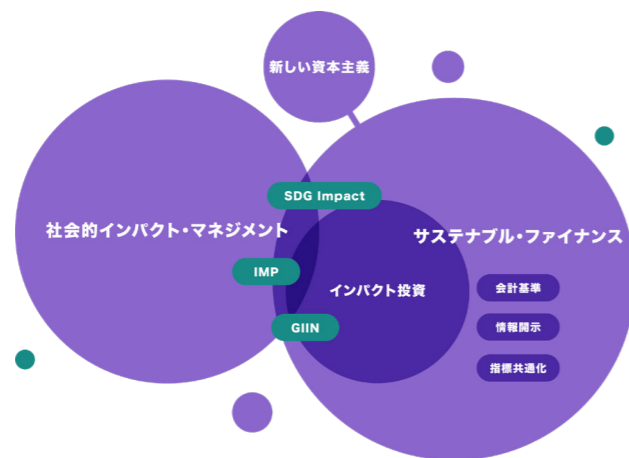
担当者から見た本事業のポイント | 千葉 直紀 | SIMI 担当者

国内外問わず社会的・環境的課題が深刻化し“待ったなし”の状況下で、金融セクターから要望されていた本研修がついに動き出しました。本研修は基礎編と実践編の2コースを用意しており、それぞれ意欲的な受講者が集まり、現場での問題意識を出したり、研修での学びを自身の現場でどう活用・展開するかの実務面での検討、受講者同士のピア・ラーニング等が展開されています。今後「インパクト・アナリスト」という存在を定義し周知していくとともに、修了生同士のコミュニティを継続的に発展させていくなど、国内のインパクト・ファイナンスの土壌を耕すことに貢献したいと思います。

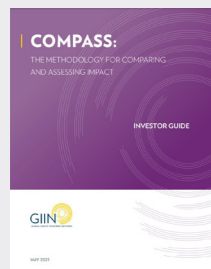
SIMI COMMENTS

グローバルリソースセンター (GRC)

SIMI が運営する情報ポータルサイト「グローバルリソースセンター (GRC)」では、社会的インパクト・マネジメント、インパクト投資、サステナブル・ファイナンス全般における海外の主要リソースをピックアップして日本語でわかりやすく解説しています。「社会的インパクト・マネジメント」「サステナブル・ファイナンス」「インパクト投資」「新しい資本主義」の4つのテーマにおいて、注目すべきサブテーマ、主要なプレイヤーを紹介し、その内容や重要性について解説しています。世界の最新リソースに直に触れ、グローバルな潮流や、目指しているものは何かをつかむことができます。これまで33の資料をご紹介します。



2021 年度の注目資料

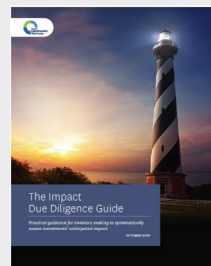


コンパス：インパクトを比較分析する方法 — 投資家のためのガイド

インパクト投資の分野で先進的な活動をしている米国非営利団体 GIIN (グローバル・インパクト投資ネットワーク) は、2021 年 5 月、インパクト結果の比較を可能とする分析基盤を構築するための公共財として、新しい手法「COMPASS」を発表しました。

原祥子氏 | GRC フェロー / JICA スタートアップ エコシステム 専門家

インパクト投資の課題の一つは、投資家が意思決定する際に、インパクトの結果を比較・評価するために必要なツールやリソースが不足していることです。本資料で紹介されている GIIN によって開発された「COMPASS」メソッドは、投資先やファンドのインパクトを比較/評価するための分析ツールの開発を促進し、この課題の解決策の一つを提示しています。視覚的にも分かりやすい資料なので、インパクト投資の実施者から初心者の方まで、幅広い方々にご利用いただけましたら嬉しい限りです。



インパクト・デューデリジェンス・ガイド

多様なインパクト投資家に実用的なアドバイスを提供することを狙いとして書かれたこのガイドでは、予測されるインパクトを体系的に測定・評価するアプローチを開発・実施するためのベストプラクティスに基づく推奨事項を示しています。

都澤亜里沙氏 | GRC フェロー

デューデリジェンスにおいて IMM を活用することは、まだ発展途上の段階にありますが、このレポートではインパクト・デューデリジェンスを既存のプロセスに統合するために行動を起こしたいと思っている方々にとって有益で具体的な案が沢山紹介されています。レポート内には、「What」を理解する Principles と、「How」を理解する Process がアイコン付きで視覚的に紹介されていますので、ご自身の組織の段階に合わせてご利用ください。



その他のリソース



社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン

本ガイドラインは、社会的インパクト・マネジメントを実践する上での考え方や実際の進め方を解説しています。また「ロジックモデル解説」「アウトカム指標データベース」など、他のツールと併せて使われることを想定しています。



アウトカム指標データベース

アウトカムは、自団体が事業において生み出したい変化・便益・成果です。本来は活動ごとに自ら設定するものですが、参考としてアウトカムのデータベースを作成しました。併せて、アウトカムを測るための指標および指標を測定するための測定方法も掲載しています。



社会的インパクト・マネジメント 超入門シリーズ動画

ガイドラインをより多くの方々にご利用いただけるように、企業の方々向けに社会的インパクトや社会的インパクト評価・マネジメントなどをわかりやすく解説した動画コンテンツ「社会的インパクト 超入門シリーズ動画」を制作し公開しています。

活用事例

活用リソース

「社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン (SIM ガイドライン)」

概要

2021 年よりエファジャパンで行う全ての事業において SIM ガイドラインを導入

導入のきっかけ

当初は、具体的なゴール設定なく事業を進めてしまっていたのですが、中長期を見据えて活動をする上で、何のため、誰のための事業かを言語化し、アウトカムを設定する必要があると思い、「社会的インパクト・マネジメント」の思考を取り入れることにしました。



鎌倉幸子さん

特定非営利活動法人エファジャパン 海外事業担当

ガイドラインを導入してみた

特に海外のカウンターパートナーとはインパクトを測る指標を一緒に作成したことで、目指す方向の認識を合わせることができ、**視界がクリアになりました**。また、寄付者に対しても、**描きたい未来、目標を明確に伝えることができるようになり**、プレゼンがやりやすくなりました。

鎌倉さんにとって SIM ガイドラインとは

カウンターパートナーとの「共通の地図」です。大切にしたい視点や目指す方向 (アウトカム) を一緒に確認しながら、描いたことで、「共通の地図」として活きていると思います。

常にコピーを手元に持っていますが、現場での実践の言語や整理に繋がったり、逆に、ガイドラインをもとに事業に不足している要素に気づききっかけになったりと、**常に原理原則に立ち返らせてくれる存在**です。

SIM ガイドライン導入を検討している団体へメッセージ

いきなり 1 人で導入しようとするのはとても難しいです。実際に以前所属していた組織では全事業への思考の定着に 3~5 年かかりました。まずは、同じ興味を持つ仲間と勉強会を実施したり、自分の関わるプロジェクト単位での導入から始めてみることで、少しずつ組織全体の空気感も変わっていくと思います。

2021年度の主なセミナー

月に1回程度、ウェビナーやイベントを開催し、社会的インパクト・マネジメント（SIM）の実践に役立つ情報発信に取り組んでいます。

日本の投資家向け GIIN COMPASS 解説会

COMPASSの主執筆者であるレイチェル・バス氏（GIIN）を招き、COMPASSの内容を、特に日本の投資家の関心も高い「投資家の貢献」と「標準化」に焦点を当てて説明しました。また、菅野文美氏（SIIF）も加わり、日本の投資家やその他のステークホルダーが抱く疑問に答え、いくディスカッションを実施しました。



<ゲスト>

Rachel Bass 氏

Senior Manager of Research at the Global Impact Investing Network (GIIN)

菅野文美氏

一般財団法人 社会変革推進財団 (SIIF) 事業本部 事業本部長

企業のサステナビリティ開示～新しい基準づくりの動き ～欧州連合（EU）の CSRD と GRI の改訂スタンダードに関する解説会

サステナビリティ開示は、企業の情報開示や報告を巡る動向の中でも、もっとも動きが早い分野の一つです。サステナビリティ開示の最新動向のうち、①欧州連合による CSRD（Corporate Sustainability Reporting Directive：企業サステナビリティ報告指令）、② GRI's revised Universal Standards の2つの重要な基準づくりを解説しました。



<ゲスト>

Jean-Christophe Nicaise Chateau 氏

欧州委員会

Peter Paul van de Wijs 氏

GRI 渉外部長

富田秀実氏

ロイドレジスタージャパン株式会社代表取締役 / GRI 日本ディレクター

インパクト投資から見た「新しい資本主義」

2021年10月に発足した岸田政権で新たな政策の柱の一つとして「新しい資本主義」が掲げられました。米国からインパクト投資を牽引してきた著名なスピーカーを2名招き、インパクト投資やサステナブルファイナンスの観点から、「新しい資本主義」が志向するものをお話いただきました。



<ゲスト>

Amit Bouri 氏

グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN) CEO

Fran Seegull 氏

米国インパクト投資連盟代表

BlueMark CEO 登壇ウェビナー | インパクト・アカウンタビリティの時代 ～インパクト・パフォーマンス、報告、検証の課題

BlueMarkは独立したインパクト検証会社で、インパクト・パフォーマンスに関する考え方や市場の進展について信頼できる報告等を発表していることで知られています。CEOのChristina Leijonhufvud氏より、インパクト・パフォーマンスの報告および検証に関する課題提示を行った上で、これらに関するグローバルな主要動向について講演いただきました。



<ゲスト>

Christina Leijonhufvud 氏

CEO, BlueMark

福山周氏

株式会社三菱 UFJ 銀行 サステナブルビジネス部 環境社会

リスク管理グループ 調査役

中村 将人氏

GLIN Impact Capital 代表パートナー

国内におけるインパクト投資推進ネットワーク

日本国内におけるインパクト・ファイナンス及びインパクト測定・マネジメント（IMM）の普及と推進のため、「GSG (The Global Steering Group for Impact Investment) 国内諮問委員会」や「インパクト志向金融宣言」をはじめとした多様なネットワークを構築し取り組んでいます。

GSG 国内諮問委員会

インパクト投資市場やエコシステムの拡大を目指すネットワーク「GSG 国内諮問委員会」においては、IMM ワーキンググループが作成・公開した「インパクト測定・マネジメント実践ガイドブック」の普及や、デットにおける IMM のガイドブック作成を目指す「デット分科会」の事務局に携わっています。



インパクト志向金融宣言

国内の金融機関がインパクト志向の投融資の実践を進めるイニシアチブである「インパクト志向金融宣言」では、賛同団体として運営に携わっています。2022年7月からは同イニシアチブに立ち上げられた7つの分科会のうち、IMMの議論を推進する IMM 分科会の事務局などの運営に参画していきます。



理事から見た本事業のポイント | 鴨崎 貴泰 | SIMI 専務理事

今年度も昨年度に引き続き国内でインパクト投資を推進する GSG 国内諮問委員会との協力を進めました。今年度は GSG 国内諮問委員会内にデット分野における IMM (Impact Measurement Management) の研究とガイドブック作成を目的とした分科会が新たに立ち上がり、SIMI はその事務局を担当しました。また、2022年度からはインパクト志向金融宣言署名機関と共に IMM 推進に関する分科会を新たに立ち上げる予定であり、IMM を中心とする社会的インパクト・マネジメントの研究と普及啓発を多くのステークホルダーと協働しながら推進していきたいと思っております。

SIMI COMMENTS

協働パートナー・助成団体

2021年度のSIMIの活動は多くの組織、個人の皆様に支えられ、推進することができました。特に以下4つの組織の皆様からのご支援、協働の機会に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



寄付・協業のお願い

SIMIでは「社会的インパクト・マネジメントが実装され、社会課題解決や社会価値創造が行われている社会」を目指して、事業協賛、寄付を通じてSIMIの活動にご参画くださる組織、個人の方を年間通じて募集しています。社会的インパクト・マネジメントを進化・発展させるための事業協賛は、ご希望にそって柔軟に対応します。事業協賛、寄付ともにお気軽にお問い合わせください。

メンバーシップのご案内

日本全体に「社会的インパクト・マネジメント」を普及させることを目指し、SIMIの理念に共感・賛同し、ともに活動を推進するメンバー（組織・個人）を募集しています。2022年6月末時点で274の個人・組織がエンゲージドメンバー、賛同メンバーとして参加しています。

1. エンゲージド・メンバー（有償）

社会的インパクト・マネジメントに関心のある組織・個人でSIMIの事業や活動に共感・賛同することを表明し、活動を主体的に支えるメンバーです。

会費（年間）

- ① 10万円：前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円以上の組織（非営利・営利を問わず）
- ② 5万円：前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円未満の組織（非営利・営利を問わず）
- ③ 1.2万円：個人
※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。

会員特典

- ① エンゲージド・メンバー限定のSIMに関する勉強会・交流会への参加権利
- ② Social Impact Dayの無料招待、SIMに関する研修、イベントなどの参加費の割引
- ③ SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMに関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信（組織会員のみ、年4回まで）
- ④ SIMIのWebサイトにおけるロゴまた組織名の掲載（組織会員のみ）

ご登録方法

ウェブサイト (<https://simi.or.jp/about/member>) の登録申込ページよりフォームに必要事項をご入力の上、ご送信ください。内容を確認後、事務局より連絡いたします。

ご不明な点がございましたら、事務局 (info@simi.or.jp) までお問い合わせください。

2. 賛同メンバー（無償）

社会的インパクト・マネジメントに関心のある組織・個人でSIMIの事業や活動に共感・賛同することを表明するメンバーです。

会費（年間）

無料
※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。基本的に自動更新です。

会員特典

- ① SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMに関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信（組織会員のみ、年2回まで）
- ② SIMIのWebサイトにおけるロゴまた組織名の掲載（組織会員のみ）

2021年度エンゲージド・メンバー紹介（一部）

組織会員 26 法人



(※五十音順に掲載)

個人会員 71 名



理事が考えるメンバーシップ制度のポイント | 高木 麻美 | SIMI 理事

SIMIのメンバーシップに近年みられる変化としては、企業メンバーが増えていることです。背景の1つとして、サステナビリティに関する指標を開示するだけでなく、それをマネジメントにどう活用するのかが問題意識を持つ企業が増えてきているということが挙げられます。2021年度には、エンゲージド・メンバー向けの勉強会や理事との懇談会をはじめ、メンバーの皆様の問題意識に沿ったイベントを複数開催しました。新年度にも研修にとどまらず、対話を通じたピア・ラーニングの場を設けていきますので、ぜひご参加ください。

SIMI COMMENTS

組織概要

名称	一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (英文表記: Social Impact Management Initiative)
設立	2020年10月
登記住所	東京都渋谷区
代表者	代表理事 今田 克司
評議員	青柳 光昌 一般財団法人社会変革推進財団専務理事 有馬 充美 西武鉄道株式会社社外取締役、 株式会社プリンスホテル社外取締役 太田 達男 公益財団法人公益法人協会会長 澁澤 健 コモンズ投信株式会社取締役会長、 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役 水口 剛 公立大学法人高崎経済大学学長 源 由理子 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科専任教授
監事	鬼澤 秀昌 おにざわ法律事務所代表
理事	伊藤 健 特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン代表理事 (業務執行理事) 今田 克司 株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役 (代表理事) 鴨崎 貴泰 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会常務理事 (専務理事) 幸地 正樹 ケイスリー株式会社代表取締役 高木 麻美 Stem for Leaves 代表
Web サイト	https://simi.or.jp/



会計報告

正味財産増減計算書

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
経常収益計	43,925,673
(2) 経常費用	
事業費計	37,294,559
管理費計	5,323,752
経常費用計	42,618,311
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益	
前期損益修正益	0
(2) 経常外費用	
経常外費用	0
前期損益修正損	120,262
当期経常外増減額	▲ 120,262
税引前当期正味財産増減	1,187,100
法人税、住民税及び事業税	137,921
当期一般正味財産増減額	1,049,179
一般正味財産期首残高	2,244,813
一般正味財産期末残高	3,293,992

II 指定正味財産増減の部

一般正味財産への振替額	0
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	3,000,000
指定正味財産期末残高	3,000,000

III 正味財産期末残高

6,293,992

2021年7月1日から2022年6月30日まで (単位:円)

貸借対照表

I 資産の部

1. 流動資産	
普通預金	39,235,328
仕掛品	1,731,500
未収金	0
流動資産合計	40,966,828
資産合計	40,966,828

II 負債の部

1. 流動負債	
未払金	7,712,931
前受金	26,822,005
未払法人税等	137,900
預り金所得税	0
流動負債合計	34,672,836
負債合計	34,672,836

III 正味財産の部

1. 指定正味財産	3,000,000
2. 一般正味財産	3,293,992
正味財産合計	6,293,992
負債及び正味財産合計	40,966,828

2022年6月30日現在 (単位:円)

